



昭和36年 はじめの校章
(1961年)まで



昭和36年 新校章制定
(1961年)3月

<校 章>昭和36年3月制定

天主台の金鷲を鷲となぞらえ、鷲と清流広瀬川を型取り、「立」と「小」をデザインした校章は、地域の由緒ある歴史と美しい自然、そしてそのすばらしい地に学校が位置していることを表すとともに、飛び立つ鷲は「強靱さ・たくましさ」、広瀬川を型取った円は「明るさ・豊かさ・清らかさ」を持った児童を象徴したものである。

即ち、心身ともに強靱で気迫に満ち、未来に向かってたくましく大きく羽ばたき飛翔する若鷲こそ立町小の子どもであり、清流広瀬川のように明るく、豊かさと清らかさを持って生き、社会に役立つ人間を志向し、その期待する児童像を表したものである。

(平成28年3月一部訂正)

<校 木>



☞松根について

この松根は、旧立町小学校（現在の西公園野球場電車通り）の校門にあった樹齢140年からの黒松の根です。旧立町小学校（亙理三万石領主伊達基男爵の屋敷跡に明治27年2月建築されたが昭和20年7月焼失）に学んだ児童に、力強い無言の教を垂れた名松も空襲で枯死しましたが、昭和40年10月、奥山栄五郎氏のご厚意でここに盤根としてご寄贈いただいたものです。

